

「自分のために」

私の将来をテーマに作文を書くということが、これほど頭を抱えさせられるとは思いませんでした。つまり、私がそれほど将来に関心がないということだと思います。将来の自分がどうなっているかだなんて、知らないからです。他人事のように思ってしまうからだと思います。

私は父に、中学生の頃から将来の目標を決めておくように言われていました。将来なんとなるようになると、父の言葉を聞き流していました。しかし、このままではいけないと思い始めたのが、高校三年の夏休みでした。高校を卒業したら大学へ行って、自分の好きなことを勉強するという考えだけが頭にあり、とりあえず周りに流されないようにと中途半端に頑張り過ごしていました。周りの環境が少しずつ進路へと変化していくにつれて、私も進路について考え始めていました。考え始めると同時に、今までなかった不安が一気に私を追い詰めてきました。

私はその不安を一人で抱えきれず、年の離れた姉に相談しました。姉は何時間も話を聞いて、アドバイスをしてくれました。姉の話を聞いていくうちに知らなかった方向性がたくさん見えてくるようになり、知れば知るほど考えるようになりました。就職という選択もあるのだと気づかされました。私は悩みました。この選択が、私の人生を大きく変えるのではと思うと怖くて不安で、なかなか決めることが出来ませんでした。人生なんて最初からシナリオがあれば、こんなに考える必要なんてなくて楽なのだと思う日々もありました。が、自分の人生、他人のルールに乗って進んでいきたいありません。自分で決断するのも理由があるのです。自分で決断ということは責任を持つということ。決断したからには最後まで自分の選んだ道を進んでいかなければならない。もし、断念してしまったら、それは親不孝者だと私は思うのです。

そんなプレッシャーから押しつぶされそうになりながら、私は決断の時を迎えようとしていました。私に未来の自分などわかりません。でも、未来の自分は幸せでいてほしい。今の私がだめでは、未来の自分もきっとだめになってしまう。今の私の決断で責任を持つことになるのは、未来の自分だから。父に、「自分のために頑張れ」と言われました。その言葉が正しいか正しくないかは私にはわかりません。でも、未来の自分はその言葉の正解を理解することが出来ると思います。自分のために頑張っていれば。私が頑張れば自分のためにもなり、成功すれば親孝行にもなる。その日がくるのを私は何よりも楽しみにしているのかもしれない。

考えれば考えるほど今までに感じたことのない思いが、たくさん出てきました。そして、その思いと同時に私は社会に出る、大人になるということに関心を持つようになりました。けれど、私は今の未熟な私のまま社会に出たくはありません。私はアルバイトの経験があります。接客業のアルバイトで、私は社会の厳しさを知りました。私の知った以上に、社会は厳しいと思います。その厳しさの中で、私たち家族のために働いてくれている親を尊

敬しています。就職氷河期と言われている時代の中で職を見つけ働いている姉や兄を自慢に思います。そして、これから高校を卒業して働いていく同級生を応援します。

私は、短大に行き、ビジネスの勉強を学びにいきます。資格、社会常識とマナー、社会へ出た時欠かすことの出来ない事を学びたいです。社会へ出る前に力を身につけ、それを武器に自信をもって社会へ出たいと思っています。将来、人から尊敬、応援されるような大人になるために。

大阪府立箕面東高等学校 二年